花組を振り返って

園芸別科花卉専攻　組長
佐　藤　由　喜

伝統のある「花組」と呼ばれる私たち園芸別科花卉専攻は、２年生が６名に１年生２名の計８名です。今年度の新入生が少ないと聞き、花組に人が入らないのではと少し心配しましたが、１０代という若々しさのあふれる２人が入ってきたことは２年生にも良い刺激になりました。

柏の葉キャンパス内の花卉・苗生産部で行われる実習では、播種や挿し木など植物生産の最初の作業から出荷までの様々な過程を花組全員で学んでいます。私たちが手を加えた植物がそのまま商品として扱われるため、１つ１つの作業を集中して行なっています。これらの作業も、正確に行なうことはもちろんのこと、作業効率を上げるためにスピードにも注意しなくてはなりません。先生や技官さんの皆様からアドバイスを頂き、出来る限り追いつけるように努力しています。１年が経った今でも、まだ追いつけそうにはないですが、確実にスピードが上がっていることを実感します。また同時に、１年生に対してどのようなアドバイスが効果的かを考え、自身の作業手順を見直しながら、更なる作業のスピードアップを目指しています。

実習のある月曜日と水曜日に担当を任されている花卉園芸必修1000属検定用ハウスの灌水も、私たちの大事な作業の１つです。灌水すべき植物はその日の天気や前日の灌水状況、季節、植物の種類などで大きく変わることに加え、学生それぞれで感覚を合わせることが難しく、乾かし過ぎてしまったり、水を与えすぎてしまったりすることもありました。私も入学したての頃は灌水したつもりでも、表面が湿る程度にしか水を与えず、昼には植物が萎れているということが何度もありました。最近では花組だけでなく、花卉園芸学研究室の皆さんと1000属ハウスについて話し合いや作業する機会が増え、灌水を含めた管理の方法を一緒になって学んでいます。

私たちが1000属ハウスの管理を行うことは、植物を実際に見て覚えるためという目的もあります。花組では修了までに1000属検定でＣ級を合格することが目標になっています。1000属ハウスには多くのＣ級の植物があるため、管理をしながら性質を掴みつつ覚えるには最適です。300属の植物を１つ１つ覚えていくことは大変なことですが、同じ科の植物は花の形などに共通点があり、それらを実際に見て触れて覚えるということが私たちの最大に強みだといえるでしょう。文字や画像だけでその植物を知ることは難しいですが、実際に育て、見て触れることでしかわからないこともあります。花組に入って良かったと思うことの１つです。

11月には戸定祭があります。ここでは花卉・苗生産部で育てられた植物以外に、花組を卒業されたOBの皆さんから植物の提供を受け、それらの植物を私たちが販売します。１年で一番大きな行事であり、２年生が１年生と一緒に行なう最後の行事でもあります。今年も戸定祭を成功させるため、渡辺先生の指導のもと、技官さんや花卉園芸学研究室の皆さんの助けを借りながら精一杯頑張ります。

戸定祭が終われば２年生は修了論文の作成、１年生は修了論文作成のための実験計画を立て始めます。適切なデータを得るための実験植物の管理は、1000属ハウスの管理以上に大変です。頭ではイメージしていても、実際に行動に移してみるとうまくいかないことが山のように出てきます。問題を解決に導くまでの道筋も大事です。人に頼るだけでは全く自分の為にならないことに気づきました。その問題に対して、なぜこの結果が生じたのかという事を考え、解決策を絞り出してから、はじめて相談をすることが一番自分の為になると思いました。それもまた良い経験ですが、そのような苦い失敗を繰り返さないため、事前の綿密な計画が最も大事であることを学びました。

２年間はあっという間です。成功も失敗もたくさんありました。そのどれもが良い経験になりました。私がここ花組にきて、学んだ事はたくさんあります。どのように作業の効率を上げるのか、植物はいま何を求めているのか。ここでの実習は私にとって、とても良い刺激になりました。この経験を最大限に活かし、また次の世代である１年生にも多くのことを伝えていきたいと思っています。